

校長の話

校長 上村 哲也

「ありがとう」を伝えよう

昨年話になりますが、11月に行った人権集中学習の中で「友だちにしてもらって一番うれしかったこと」について話しました。その中に「うれしい言葉をかけてくれる」ということがありました。今日は、「ありがとう」という言葉について考えてみたいと思います。

「ありがとう」は相手の人に何かをしてもらったときや、何かをいただいたときなどに用いる感謝の気持ちを伝える言葉です。つい最近、保健委員会の「ありがとうの花を咲かせよう」という活動が始まり、感謝を伝える言葉が昼の放送で紹介されていますね。それを聞いているだけで何だか心が温かくなりませんか。

ところで、皆さんは、「ありがとう」をどのように伝えていますか。親しい人にはかえって恥ずかしかったり照れくさかったりで、素直に感謝を伝えられないときがありませんか。また、相手が大人だったりすると、かしこまってどう感謝を伝えたらよいか考えてしまい、「ありがとう」を言えなかったということもあるでしょうか。

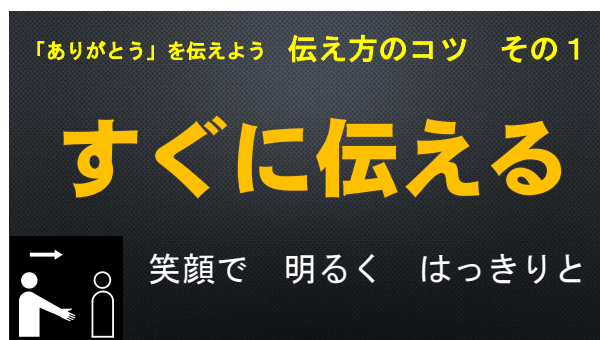
「ありがとうと言わなくても、相手は感謝していると、分かっているはずだ・・・」。そんな風に考えたことは誰にでもあると思います。でも、心の中だけで感謝をしても、相手には伝わりません。感謝は言葉にしてこそ、初めて伝わるのです。

そこで、これから、**感謝を伝えるときのコツ**を話します。

1 すぐに「ありがとう」と伝える

何かをしていただいたら、すぐにお礼を伝えましょう。笑顔で相手の目を見ながら、明るい声で、最後まではっきりと伝えるのがポイントです。

逆に、うつむきながら消え入りそうな声で「ありがとう・・・」を伝え



られると、相手の人にあなたの気持ちが伝わりにくく、かえって印象を悪くしてしまうこともあります。

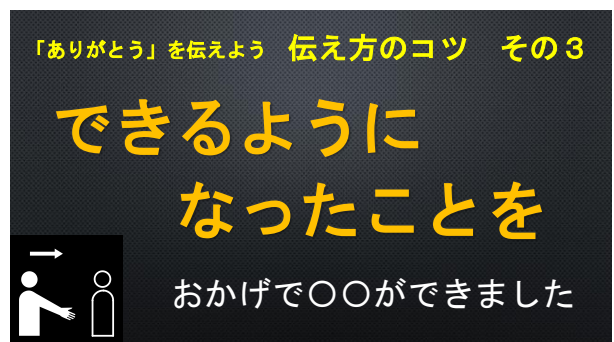
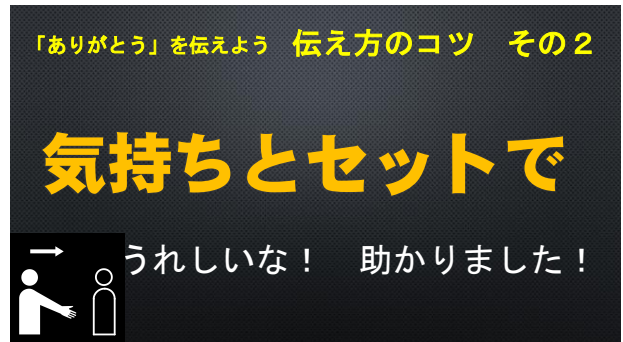
2 その時感じた気持ちとセットで伝える

ただ単に「ありがとう」と伝えるよりも、「うれしいです」「楽しかったです」「助かりました」など、その時感じた気持ちを「ありがとう」とセットにして伝えましょう。感謝の言葉は、ダブルで伝える。出し惜しみをしない。その方が、より感謝の気持ちが伝わります。

3 できるようになったことを伝える

相手が教えてくれたおかげでできるようになった事があつたら、それをそのまま伝えましょう。例えば、「〇〇さんのおかげで二重跳びができるようになりました」。きっと相手も一緒になって喜んでくれます。

以上、「ありがとう」を伝えるときのコツを3つ紹介しました。



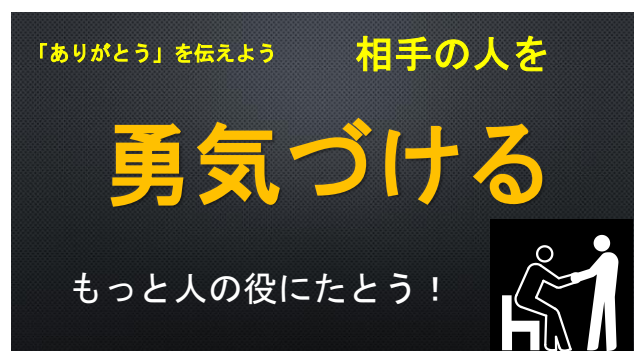
ここで一つ、ありがとうカードに書かれていた言葉を紹介します。これは既に放送で紹介されましたが、改めて紹介します。

「ありがとう。おかげで表裏コントロールがうまくいくようになりました。あなたのおかげで生きがいが生まれました。どうもありがとう。」

※表裏…「前向きな自分と後ろ向きの自分、人前の自分とそれと違う自分」を指していると思われます。

カードに書いた人の気持ちがとてもよく伝わります。

感謝に、伝えられた相手の人の気持ちを考えてみましょう。相手の人も人の役に立ったことをとても喜んで、これからもずっと、もっと応援しようと思うことでしょう。このように、「ありがとう」と相手に感謝の気持ちを伝えることは、よい行いをしてくれた「相手を勇気づける」ことにもなるのです。そして、勇気づけられた相手



はさらにもっと多くの人の役に立とうとすることでしょう。

・・・でも、今話したことは理解することが少し難しいと思います。
担任の先生、後はよろしくお願いします。

みなさん、お互いにどんどん感謝の気持ちを伝え合っていきましょう。

